赤池の決意 自分の国は自分で守る態勢づくりに取り組みます。

「自分の国は自分で守る」態勢づくりが急務です。2027年台湾有事が現実味を帯びる中、物理的な衝突のみならず、情報戦やサイバー戦を含め、最悪の事態を想定しておかねばなりません。国家安全保障戦略に基づき、防衛力の抜本的強化を早急に進めると共に、自衛隊等を明記する憲法改正の実現は不可欠です。そして、外務省定員を抜本的に増強して外交実施体制の強化を図り、日米同盟はじめ価値観を共有する国々との連携を深め、自由で開かれたインド太平洋の構築が重要です。さらに、情報戦・サイバー戦に備えるべく、人員体制や法整備を進めて情報機関を強化することに加え、所管省庁による事実確認と情報発信の仕組み等、偽情報対策にも取り組んでまいります。

赤池の決意 安定的な経済成長の実現に全力を尽くします。

加速化する少子高齢化・人口減少社会の中、いかに安定的な経済成長を実現するかが日本の先行きを左右します。重要なのは、積極財政と機動的な金融政策、そして、成長戦略の推進です。経済活動の基盤となる社会資本整備を着実に進め、現在進行形の課題である交通空白の解消に取り組みます。生産性向上を目指し、デジタル化設備・教育訓練・研究開発等への投資を官民連携で倍増させると共に、雇用の正規化、起業や中堅企業の育成、原子力をはじめとしたエネルギーや食料等の自給率向上の推進、事業継続計画(BCP)策定の促進、供給網の強靭化、成長分野の振興に力を入れ、稼ぐ力を強化し、物価高を超える賃上げに繋げ、投資と消費の好循環で安定的な経済成長の実現を目指します。

赤池の決意 我が国の発展・成長の柱として人づくりに取り組みます。

我が国は、人づくりによって支えられてきました。伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する心を持ち、国益を支える公徳心を備え、心身ともに健康で、働くことの意義を理解し、危機管理能力を持った人材を育てることは、我が国の発展・成長の柱です。そして、今後、加速化する少子高齢化・人口減少社会を乗り越えるためには、普通教育と職業教育の複線化や、地域や産業界が学校運営に参画して共に学校や地域の課題を解決することを目指すコミュニティスクール (学校運営協議会) 等の必置化、更には、業界毎に産学官で連携して人材を育成する仕組みづくり等、既存の枠組みの再構築も重要です。

赤池まさあきプロフィール

昭和36年山梨県生まれ。明治大学政治学科卒業。松下政経塾で松下幸之助氏に「人づくり」の重要性を学ぶ。自動車整備士養成の専門学校長を経て、衆議院議員に初当選。平成25年参議院議員選挙比例代表(全国区)で国政復帰。国土交通委員会理事、文部科学大臣政務官、文教科学委員長、自民党文部科学部会長(三期)、内閣府副大臣等を務めるとともに、政策集団「保守団結の会」を起ち上げ、共同代表世話人に就任。現在は、自民党政務調査会副会長三期目。参議院議員二期目。

https://www.akaike.com

[後援会事務局]
〒400-0032 山梨県甲府市中央1-1-11-2F
TEL 055-237-5523　FAX 055-237-5281

[国会事務所]
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館524号室
TEL 03-6550-0524　FAX 03-6551-0524

ご挨拶

筋の通らないところに結果は出ず、取り組むからには結果を出さねば意味が無い。結果を出すべく責任を持って取り組む姿勢を忘れず、結果が出なければ、原因分析し、改善策を考える。この基本を徹底し、日々勉強を怠らず、経験を糧とし、学んだことを活かし、これら積み重ねが力となって、ようやく国家・国民に貢献できるようになると考え、地道に歩んでまいりました。

私は、国政課題と向き合う時、当たり前ですが、常に「公＝国家」を意識しています。昨今、残念なことに、様々な課題に対し、目先優先の個別最適解を求める暫定的な対応が散見され、暫定的な対応の結果、更に別の課題が発生する等、悪循環に陥りかけていると感じています。国の対応力は無限では無いことからも、状況や問題点を精査・分析し、根本的な所からの見直し・建て直しを図り、中・長期的視点で包括的かつ少しでも恒久的に近い解決策も合わせて模索していかないと、いずれ国家が機能不全になり、いよいよ暫定対応すらできなくなるのではという危機感すら持っています。まして、大変厳しい安全保障環境に加え、今後、本格的に到来する少子高齢化・人口減少社会は、未だかつて、我々が経験したことの無い社会であり、既存の対応で乗り切ることは難しくなります。

それ故、私は、従来の枠組み通りに解決策を考えるだけではなく、我々日本人が育んできた知恵を最大限発揮し、切り口を変えたり、バラバラに機能しているものを繋げたり組み替えたり、重複しているものをまとめる等、課題解決の軸を明確にして再構築することで、今のうちに国力強化を図り、迫り来る厳しい将来に少しでも備えたいと考えています。

AIなど便利なツールも多数出てきましたが、どう使いこなすかは人次第であって、やはり最後は人なのだと思います。私は、一貫して「国づくり、地域づくりは、人づくりから」を信条に、どの国政課題と向き合う時も、人づくりは必ずセットで取り組んできました。

まだまだ課題は山積みです。中途半端な取り組みで終わるわけにはいかない、強くそう思って活動しております。どうか皆様のご指導を賜りますことを切にお願い申し上げます。

参議院議員 赤池誠章

国づくり、地域づくりは、人づくりから!!

＜ 外交・防衛・防災 ＞

▶自分の国は自分で守る人員体制を充実・強化！

自分の国は自分で守る態勢づくりと拉致・領土主権問題解決に向け、防衛力の抜本的強化、外交力・情報力の増強に取り組み続けています。自衛隊員募集を支援すべく、自衛隊の活躍の教科書掲載や、自衛官の処遇改善及び退職後の再就職支援(国交省や文科省にも連携拡大)を推進しました。外務省や情報機関の人員体制の充実にも力を入れ、その強化に繋げました。また、長年、外交部会等で対中経済援助の必要性に疑義を呈し続け、その主張が実り、対中経済援助は全面停止となりました。国内の治安テロ対策にも精力的に取り組み続けており、仮装身分捜査を実現に繋げました。

▶活火山法の改正を議員立法として実現！

自民党火山噴火予知・対策推進議員連盟(火山議連)事務局長・活火山法改正プロジェクトチーム座長として、活動火山対策特別措置法(活火山法)の改正を議員立法で実現しました。この改正により「火山調査研究推進本部(火山本部)」が文部科学省に設置され、火山の観測や調査・研究の方針を国が主導することになり、火山観測が始まった8月26日を「火山防災の日」として、火山防災対策が大きく前進することに繋がりました。火山専門人材育成の予算も確保し、地方が継続的に専門人材を確保するための支援制度も実現しました。また、南海トラフ海底地震津波観測網(Nネット)の実現にも力を入れ、科学技術やフェーズフリー(平時と有事の融合)を支援する各種政策や、広域避難に繋がる二地域居住の推進にも取り組み続けています。

▶保守団結の会 代表世話人として活動を牽引！

祖先から継承してきた「日本」を子孫に受け継ぐべく、保守主義を信奉する同志が団結し、本会の設立に至りました。英霊の慰霊と顕彰のため靖国神社を参拝することとし、皇位の安定的継承のための旧宮家復活、対中・対北朝鮮・対露・対韓への毅然とした外交、日台連携推進、防衛力強化と防衛増税反対、コロナ禍・物価高での経済的支援、地域の祭り復活等、各種政策を政府に求めてきました。特に、韓国との歴史戦の様相を呈した「佐渡島の金山」世界文化遺産登録については、実現を勝ち取りました。

＜ 経済・産業振興・地方創生 ＞

▶海事振興、海洋人材育成強化の諸施策を実現！

海洋教育推進プロジェクトを設立し、座長として、海洋国家である我が国に不可欠な海事振興に向けた活動を展開してきました。海洋人材の育成強化を目指し、小・中・高校の学習指導要領への海事産業の記載を実現し、商船高専の練習船の順次更新も実現しました。更に、海事関係者と教育機関との連携強化等にも取り組み続けています。

▶自動車・オートバイ産業振興策を推進！

我が国最大の自動車・オートバイ産業の振興に向け、新技術対応や生産性向上等の予算確保をはじめ、処遇改善を目指して価格交渉と転嫁の促進に力を入れ、人手不足対策として教育機関等との連携に取り組み、要望の多かったバイクの希望ナンバー制は導入決定を実現しました。

▶高速道整備やJR中央本線の課題解決を実現！

中央道渋滞緩和や中部横断道早期開通に向け、議員連盟を結成し、事務局長として活動を牽引してきました。小仏トンネルに並行するトンネルの新設、渋滞個所の三車線化、中部横断道南部区間の予算確保・全線開通等、道路整備に関する課題解決を実現してきました。引き続き、中部横断道の四車線化や北部区間の開通促進、住民と観光客が利用しやすいAIオンデマンド乗合バス等、二次交通の充実に向けた活動を展開中です。また、JR中央本線の利便性向上を目指した議員連盟も結成し、事務局長として活動を牽引してきました。新型特急の導入に尽力するとともに、携帯電話不通区間の解消、グリーン車導入にも目途をつけました。

▶日本遺産等、文化を通じた地方創生を推進！

文化庁による日本遺産認定事業を支援する日本遺産推進議員連盟を設立。事務局長として、毎年、日本遺産推進フォーラムを開催する等、国と地方そして官民の連携を強化して日本遺産の振興を推進し、文化芸術の振興、地方創生、観光活性化へと繋げてきました。

＜ 教育・文化・スポーツ等 ＞

▶学校の複線化とコミニティスクール等を推進！

少子高齢化・人口減少社会を乗り越えるべく、学校の複線化を目指した職業教育の充実、給付型奨学金の創設、学校施設の整備、私学振興、産学官の連携、高校・高等専修学校の国費支援、教職調整額10%増と学校の働き方改革の法制化等に取り組んできました。子ども会等の各種団体と連携したコミュニティスクール(学校運営協議会)の拡大にも力を入れ、全国で6割の公立学校が導入に至りました。各地の教育委員会支援のため、地方教育アドバイザーとして文科省が協力する制度や、博士人材に科学技術教育アドバイザーを委嘱し小中高校に派遣する仕組みをつくりました。

▶武道・スポーツ振興策を推進！

銃剣道振興議員連盟を設立し、事務局長として活動を牽引してきました。近代9武道全ての学習指導要領への明記や、中学校体育科の武道必修化における複数種目化を実現するとともに、武道ツーリズムや海外での情報発信活動の支援を強化しました。また、ゴルフ振興議員連盟事務局長として、競技力向上や普及をはじめとしたゴルフ振興を通じ、地方との連携や国民の体力向上・健康増進に繋げる活動を展開してきました。

▶文化財保存修理の予算を確保！

文化財保存活用勉強会を立ち上げ、文化財関係の予算増を実現し、人材確保に向けても新たに教育機関との連携の場をつくりました。また、伝統芸能の振興に向け、国立劇場建替えの予算確保や、人材育成のための同養成所の支援にも尽力しました。

▶通称使用拡大を入れた三択の世論調査を実現！

選択的夫婦別氏に関する民意の正確な把握のため、政府の世論調査は「賛否の二択」から「通称使用拡大を入れた三択」に変更すべきと強く訴え、三択の調査となった結果、同氏維持・旧氏の通称使用拡大という民意が明確になりました。また、各省庁へ地道に働きかけ、全320の国家資格・免許等の旧姓使用を実現しました。